

介護・認知症に関するアンケートの実施報告

6月11日(木)から7月2日(木)までの間、介護・認知症に関するアンケートを実施いたしました。

結果、643名の方からご回答をいただきました。アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さまには御礼申し上げますとともに、その結果について下記のとおりまとめましたので、ご報告いたします。

1 アンケート実施期間

令和2年6月11日(木)から令和2年7月2日(木)まで

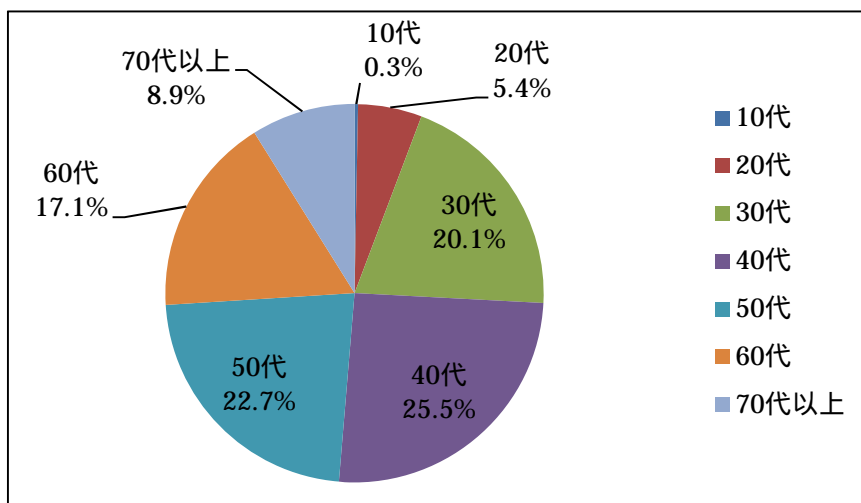
2 回答率等

対象者数 954人
回答者 643人
回答率 67.4%

3 回答者の属性

【年代別】

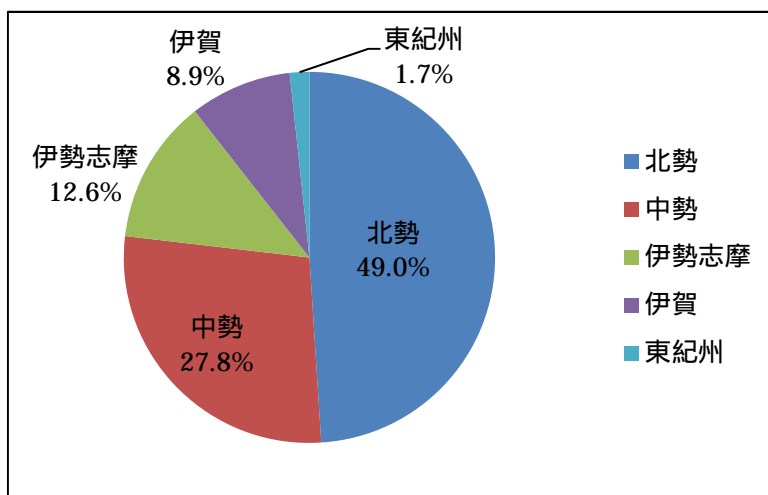
	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	2人	35人	129人	164人	146人	110人	57人
割合	0.3%	5.4%	20.1%	25.5%	22.7%	17.1%	8.9%



割合は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【地域別】

	北勢	中勢	伊勢志摩	伊賀	東紀州
人数	315 人	179 人	81 人	57 人	11 人
割合	49.0%	27.8%	12.6%	8.9%	1.7%



北勢：四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、桑名郡、員弁郡、三重郡

中勢：津市、松阪市、多気郡

伊勢志摩：伊勢市、鳥羽市、志摩市、度会郡

伊賀：名張市、伊賀市

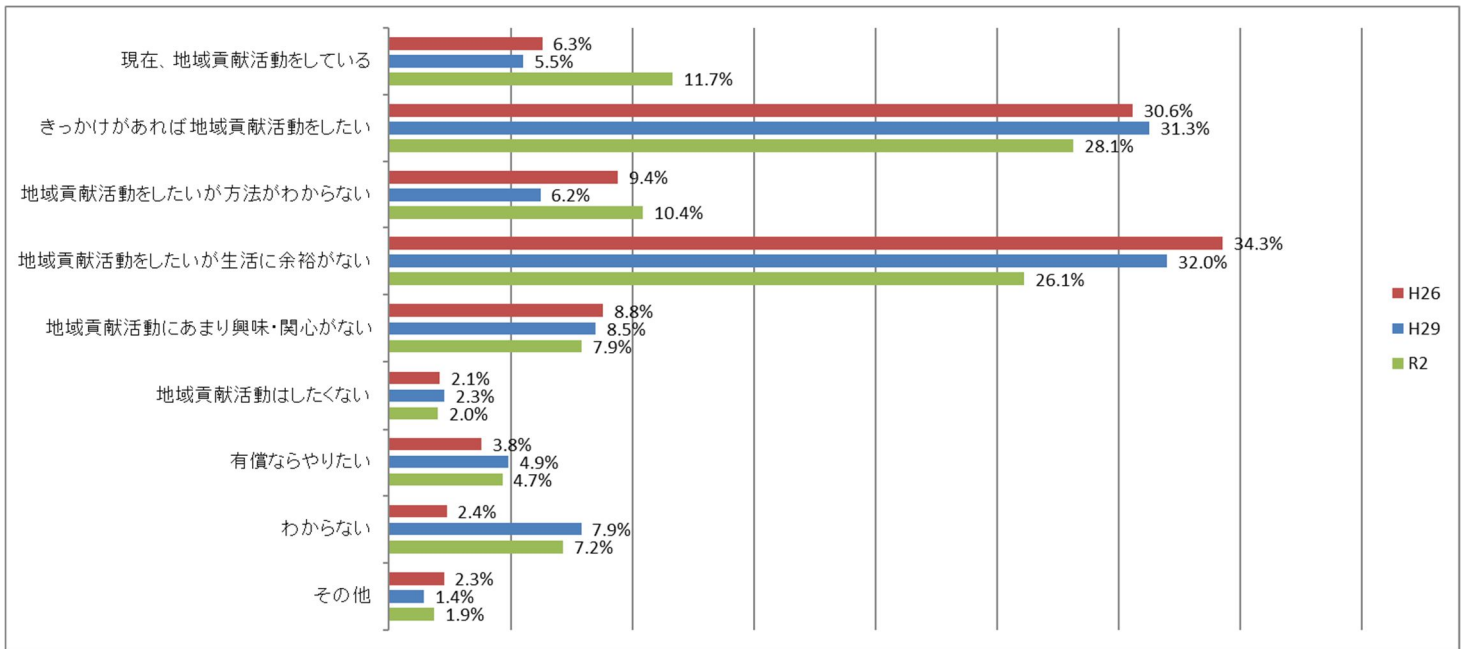
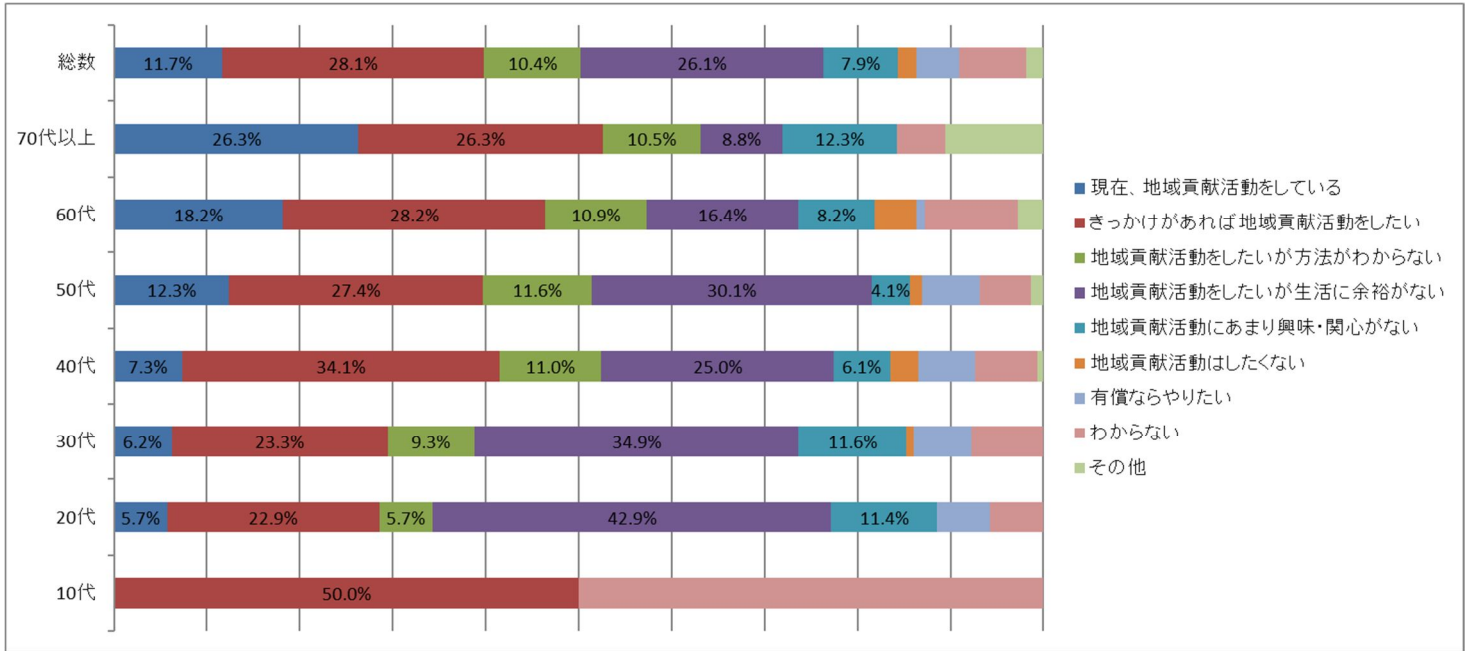
東紀州：尾鷲市、熊野市、北牟婁郡、南牟婁郡

割合は少数点第2位以下を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

4 アンケート結果

(地域の支え合いについて)

Q1 これからの高齢社会を支えるため、地域で助け合う「互助」に期待が寄せられています。あなたは、地域の中で助け合うための「地域貢献活動」をしたいと思いますか。

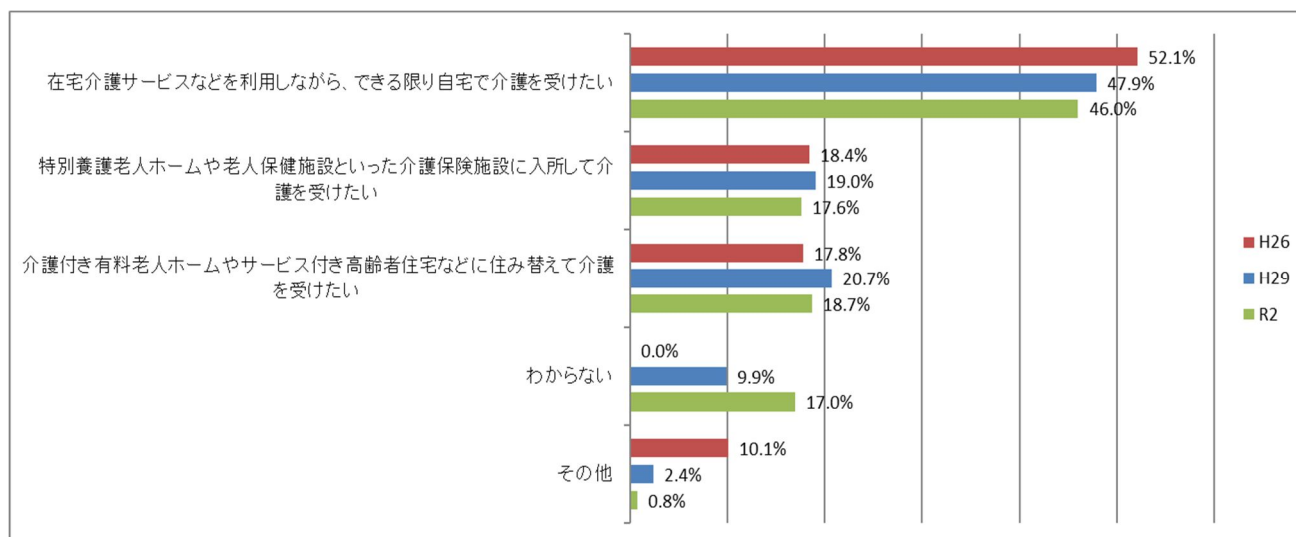
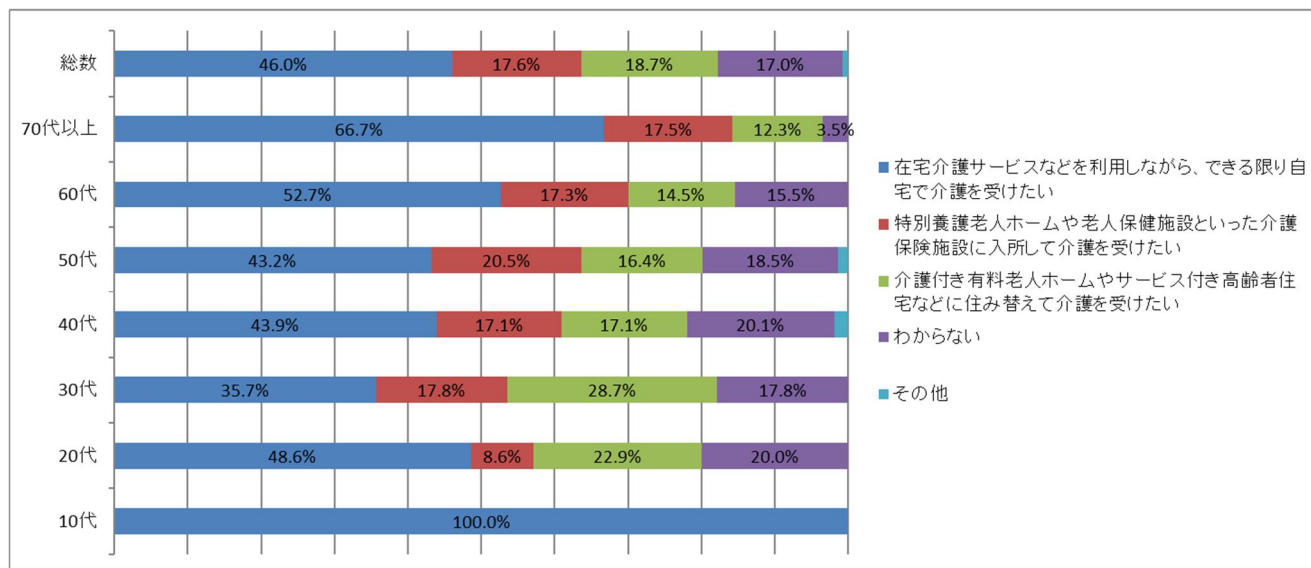


地域の中で助け合うための「地域貢献活動」を行いたいとお聞きしたところ、「地域貢献活動をしている」又は「したいと思っている」方の割合が 76.3%（「現在、地域貢献活動をしている」11.7% + 「きっかけがあれば地域貢献活動をしたい」28.1% + 「地域貢献活動をしたいが方法がわからない」10.4% + 「地域貢献をしたいが生活に余裕がない」26.1%）、「関心がない」又は「したくないと思っている」方の割合が 9.9%（「地域貢献にはあまり興味・関心がない」7.9% + 「地域貢献活動はしたくない」2.0%）となっています。

年代別にみると、「現在、地域貢献活動をしている」と答えた方の割合は70歳代以上と60歳代で、「きっかけがあれば地域貢献活動をしたい」と答えた方の割合は60歳代と40歳代で、「地域貢献活動をしたいが方法がわからない」と答えた方の割合は50歳代で、「地域貢献をしたいが生活に余裕がない」と答えた方の割合は20歳代で、「地域貢献にはあまり興味・関心がない」と答えた方の割合は70歳代以上、30歳代でそれぞれ高くなっています。

(介護を受ける場所)

Q2 仮にあなたに介護が必要となった場合、どこで介護を受けたいですか。



仮に介護が必要となった場合に、どこで介護を受けたいと思うかお聞きしたところ、「在宅介護サービスを利用しながら、できるかぎり自宅で介護を受けたい」と答えた方の割合

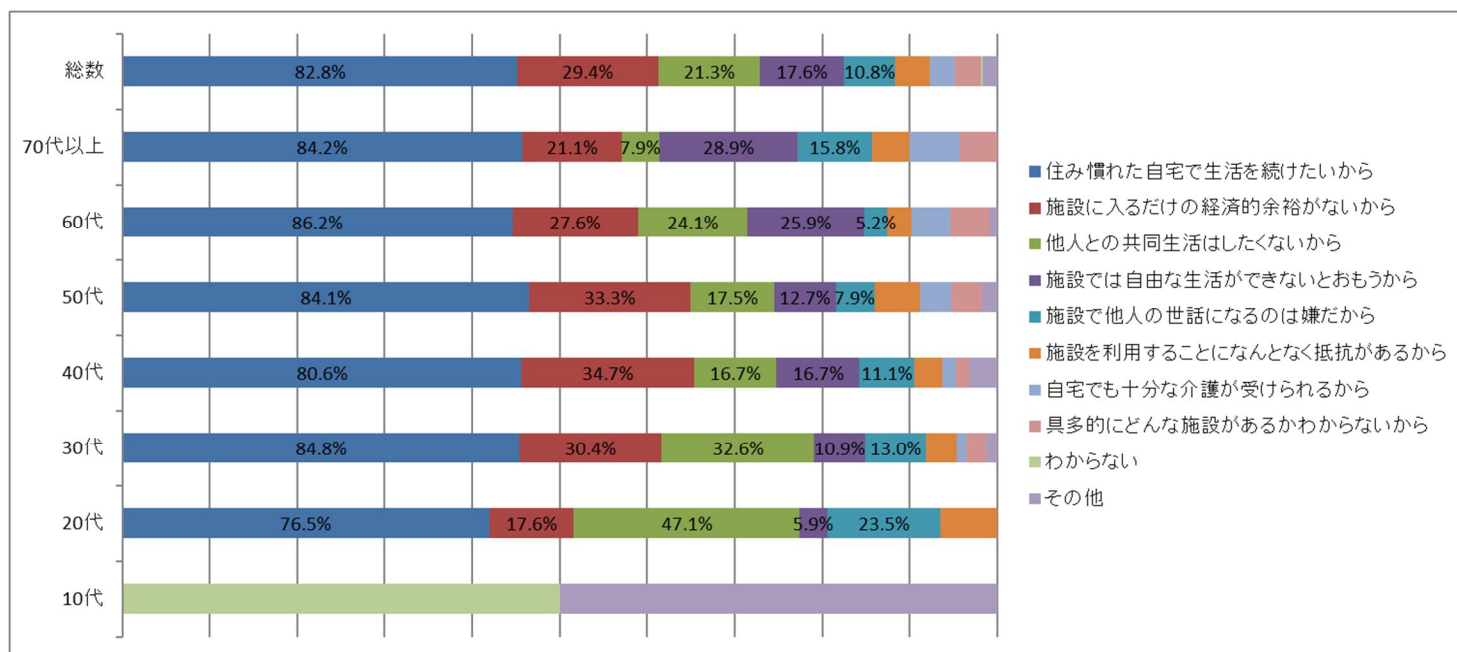
が 46.0%、「特別養護老人ホームや老人保健施設といった介護保険施設に入所して介護を受けたい」と答えた方の割合が 17.6%、「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などに住み替えて介護を受けたい」と答えた方の割合が 18.7%となっています。

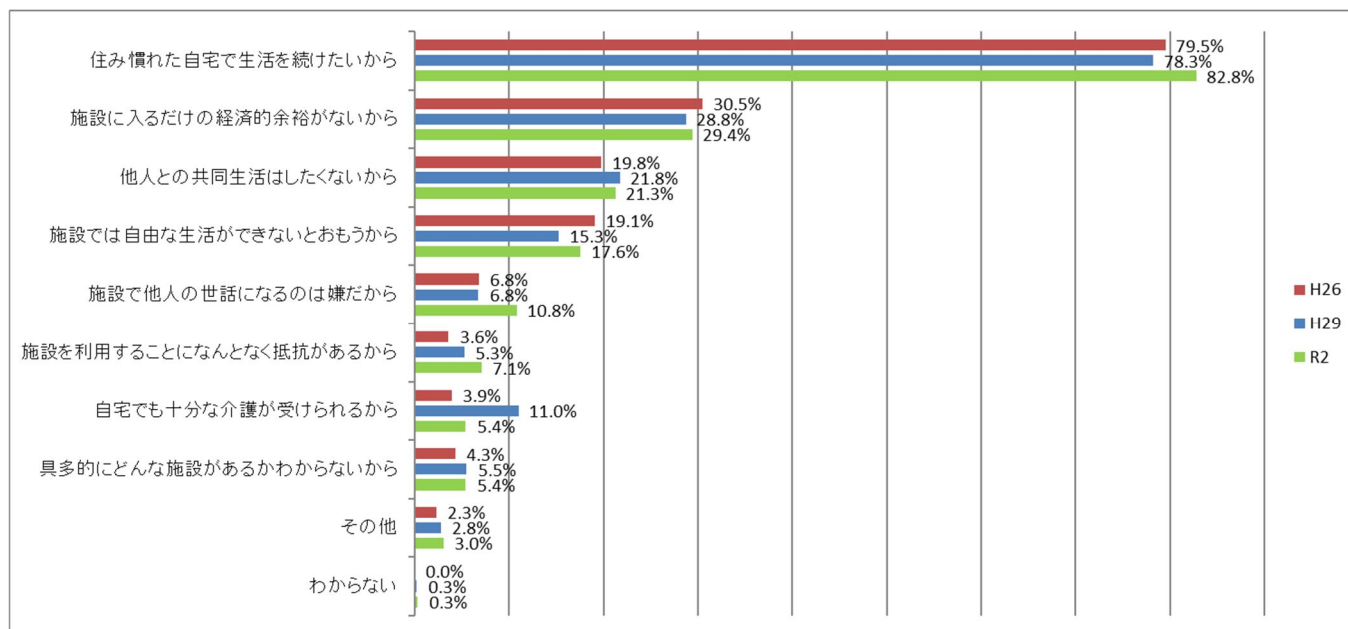
前回の調査結果（平成 29 年）と比較してみると、在宅で介護を受けたい方、介護保険施設、有料老人ホーム等の施設で介護を受けたい方の割合が減少し、わからないとした方の割合が増加しています。

年齢別に見ると、「在宅介護サービスを利用しながら、できるかぎり自宅で介護を受けたい」と答えた方の割合は 70 歳以上で、「特別養護老人ホームや老人保健施設といった介護保険施設に入所して介護を受けたい」と答えた方の割合は 50 歳代で、「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などに住み替えて介護を受けたい」と答えた方の割合は 30 歳代で、それぞれ高くなっています。

（自宅で介護を受けたい理由）

Q3 Q2 で「在宅介護サービスなどを利用しながら、できるかぎり自宅で介護を受けたい」とお答えいただいた方にお聞きします。その理由について、主なものを 2 つまで選んでください。

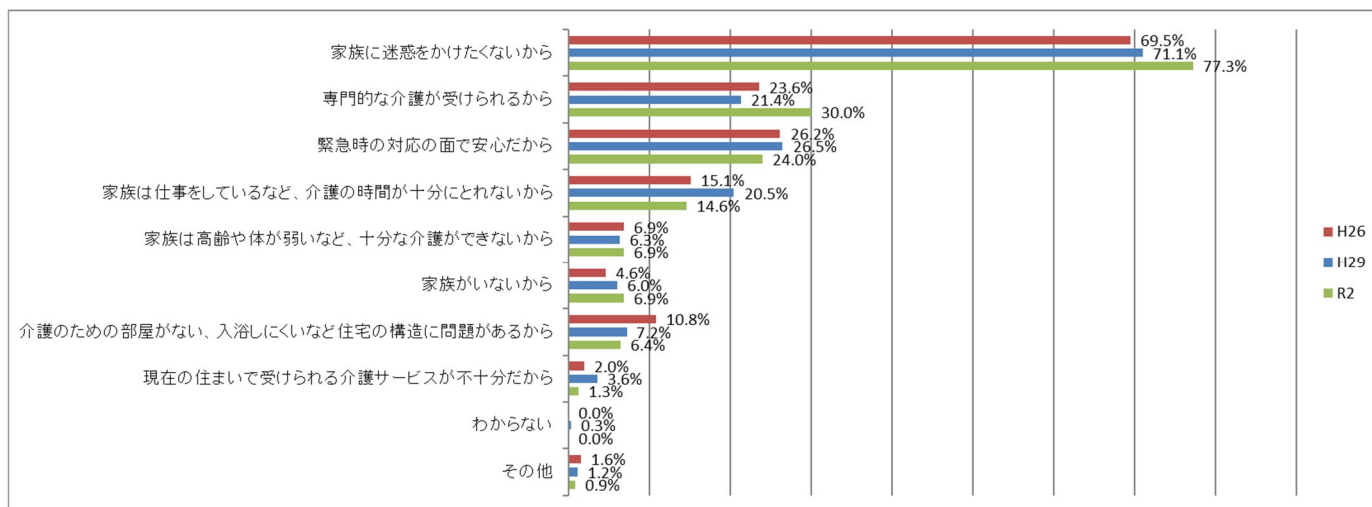
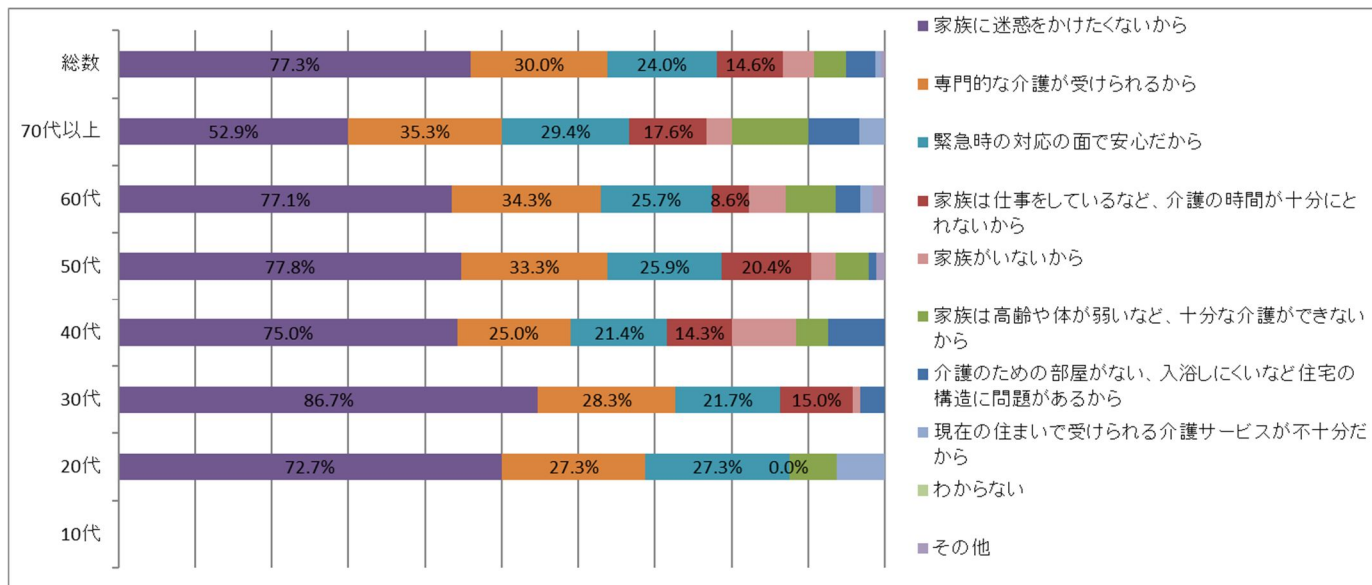




「在宅介護サービスを利用しながら、できるかぎり自宅で介護を受けたい」と答えた方(296人)に、その理由をお聞きしたところ、「住み慣れた自宅で生活を続けたいから」と答えた方の割合が82.8%と最も高く、以下、「施設に入るだけの経済的余裕がないから」(29.4%)、「他人との共同生活はしたくないから」(21.3%)、「施設では自由な生活ができないと思うから」(17.6%)などの順となっています。(複数回答)

前回の調査結果(平成29年)と比較してみると、「住み慣れた自宅で生活を続けたいから」(78.3% 82.8%)と答えた方の割合が増加しています。

Q4 Q2で「特別養護老人ホームや老人保健施設といった介護保険施設に入所して介護を受けたい」、「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などに住み替えて介護を受けたい」とお答えいただいた方にお聞きします。その理由について、主なものを2つまで選んでください。



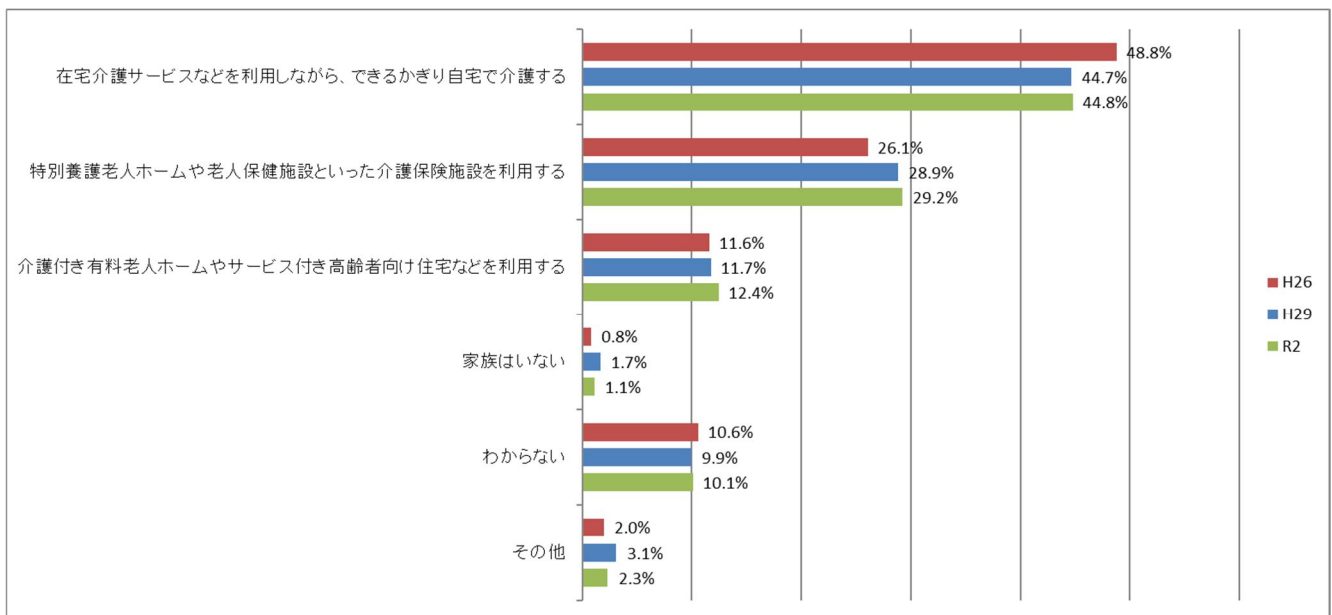
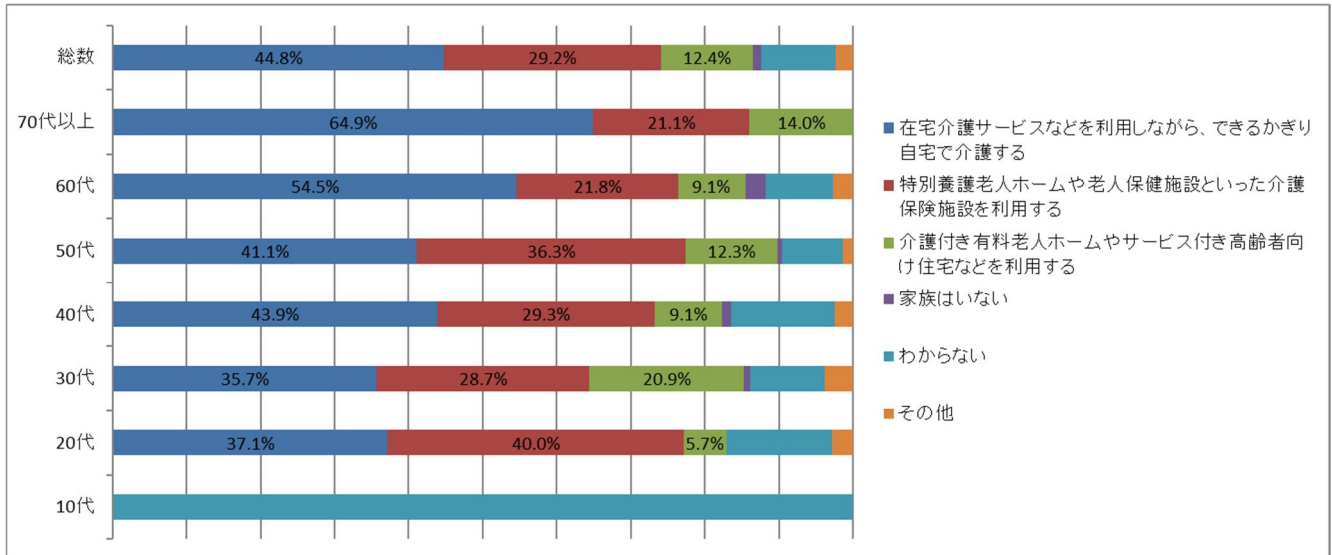
「特別養護老人ホームや老人保健施設といった介護保険施設に入所して介護を受けたい」、「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などに住み替えて介護を受けたい」と答えた方（233人）に、その理由をお聞きしたところ、「家族に迷惑をかけたくないから」と答えた方の割合が77.3%と最も高く、以下、「専門的な介護が受けられるから」（30.0%）、「緊急時の対応の面で安心だから」（24.0%）、などの順となっています。（複数回答）

年代別に見ると、「家族に迷惑をかけたくないから」と答えた方の割合は30歳代で、「専門的な介護が受けられるから」と答えた方の割合は70歳代以上、60歳代、50歳代で、それぞれ高くなっています。

前回の調査結果（平成29年）と比較してみると、「専門的な介護が受けられるから」（24.1%→30.0%）と答えた方の割合が増加しています。

(介護を受けさせる場所)

Q5 仮にあなたのご家族に介護が必要となった場合、どこで介護を受けさせたいですか。



仮に家族に介護が必要となった場合に、どこで介護を受けさせたいと思うかお聞きしたところ、「在宅介護サービスを利用しながら、できるかぎり自宅で介護を受けさせたい」と答えた方の割合が 44.8%、「特別養護老人ホームや老人保健施設といった介護保険施設に入所して介護を受けさせたい」と答えた方の割合が 29.2%、「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などに住み替えて介護を受けさせたい」と答えた方の割合が 12.4%となっています。

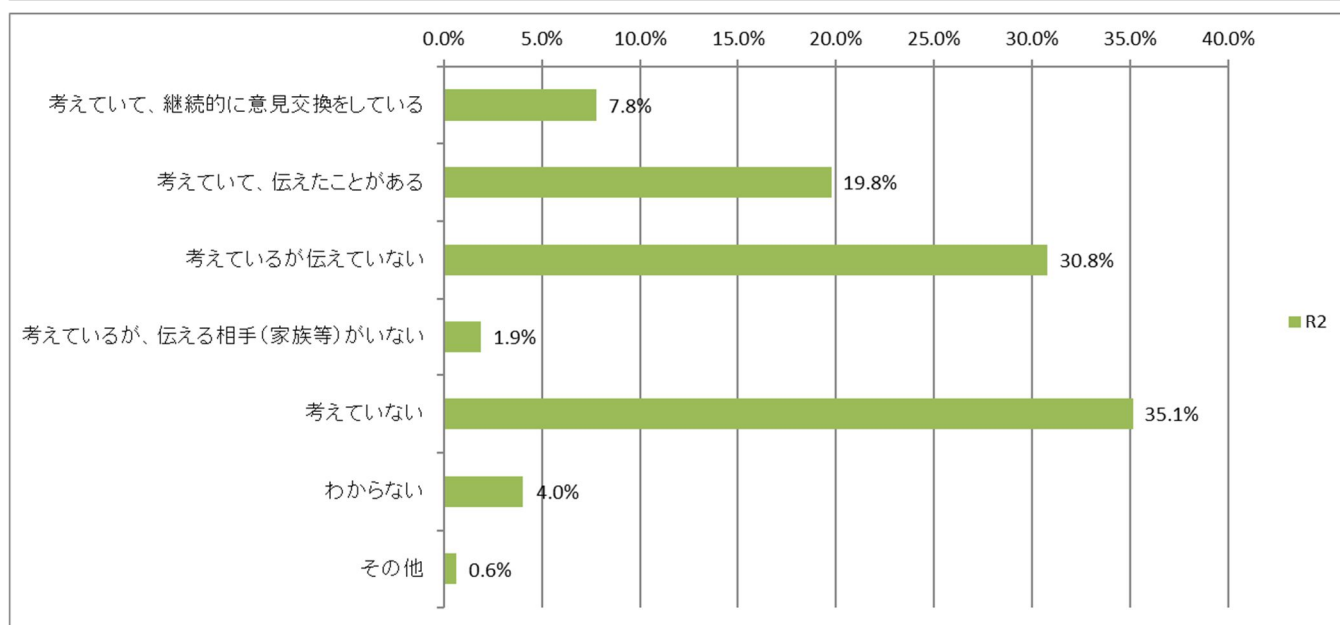
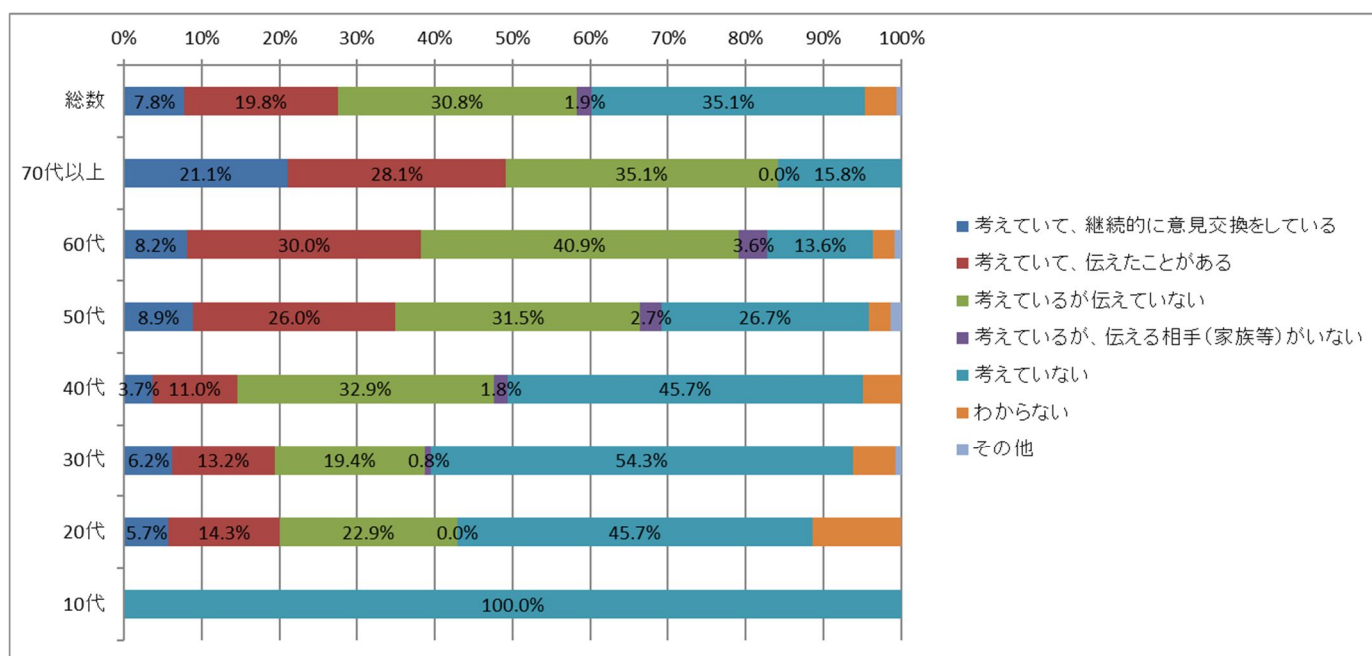
年代別に見ると、「在宅介護サービスを利用しながら、できるかぎり自宅で介護を受けさせたい」と答えた方の割合は 70 歳代以上、60 歳代で、「特別養護老人ホームや老人保健

施設といった介護保険施設に入所して介護を受けさせたい」と答えた方の割合は50歳代、20歳代で、「介護付き有料老人ホームやサービス付き高齢者向け住宅などに住み替えて介護を受けさせたい」と答えた方の割合は30歳代で、それぞれ高くなっています。

前回の調査結果（平成29年）と比較してみると、在宅介護サービスを使い自宅で介護すると答えた方、施設サービスを利用すると答えた方の割合に大きな変化はありませんでした。

（人生の最終段階における意思決定とその意見交換の実施について）

Q6 あなたは自分が亡くなる場所、亡くなる前にやりたいこと、治療方針などを考えて、家族等周囲の方にその考えを伝え、継続的に意見交換をしていますか。

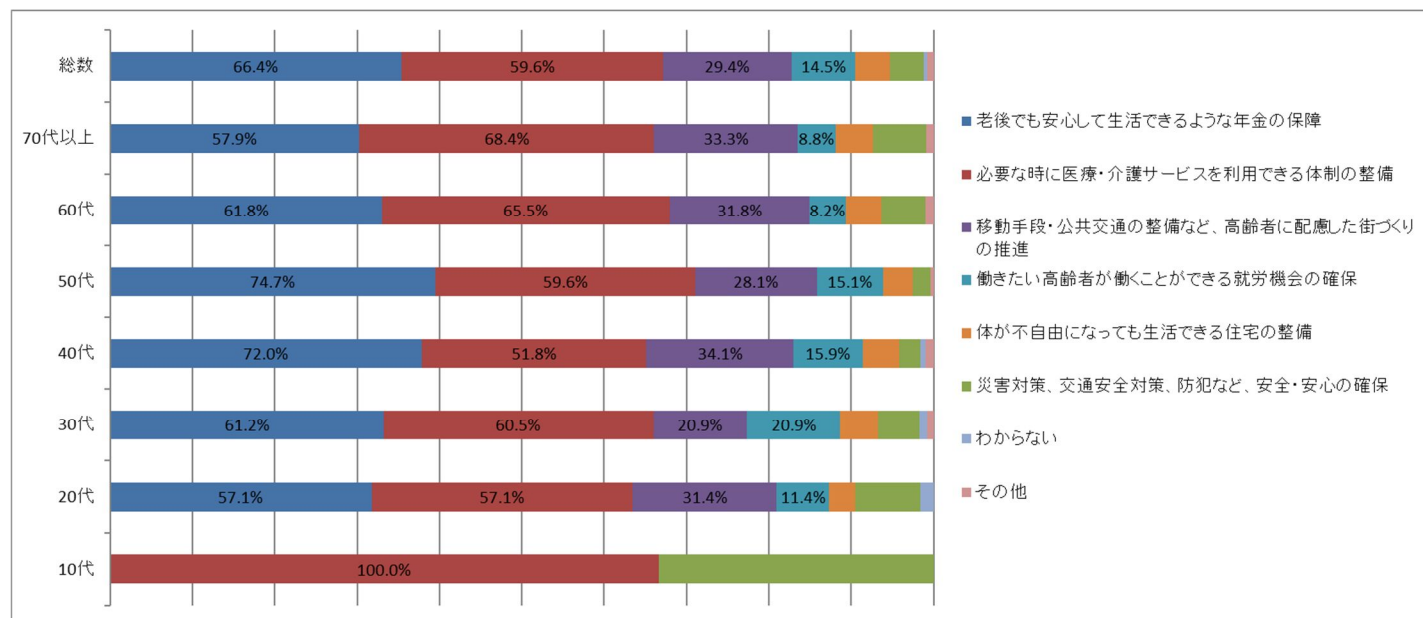


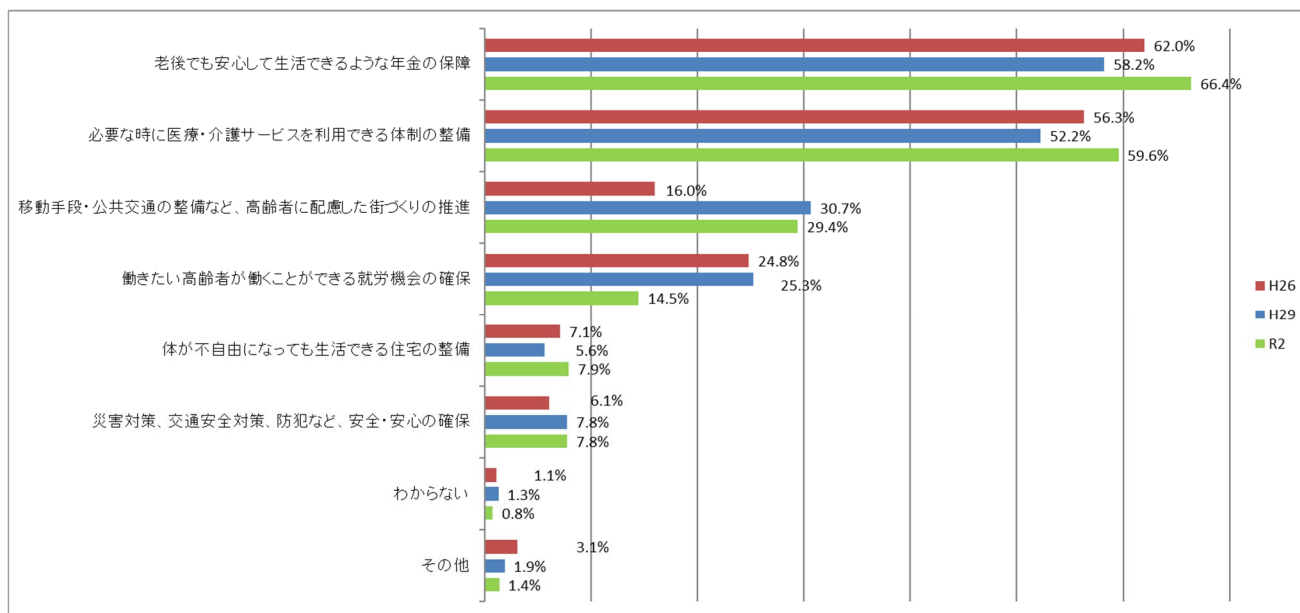
自分が亡くなる場所、亡くなる前にやりたいこと、治療方針などを考えて、家族等周囲の方にその考えを伝え、継続的に意見交換をしているかについてお聞きしたところ、「考えていない」と答えた方の割合が35.1%、「考えているが伝えていない」と答えた方の割合が30.8%、「考えていて伝えたことがある」と答えた方の割合が19.8%となっています。

年代別に見ると、「考えていて、継続的に意見交換している」と答えた方の割合は70歳以上で、「考えていて伝えたことがある」と答えた方の割合は70歳代以上、60歳代、50歳代で、「考えていない」と答えた方の割合は40歳代、30歳代、20歳代、10歳代で高くなっています。

（高齢社会のための施策）

Q7 高齢社会に対応していくため、日々の暮らしに関し、社会として最も重点を置くべき対策は何だと考えますか。主なものを2つまで選んでください。





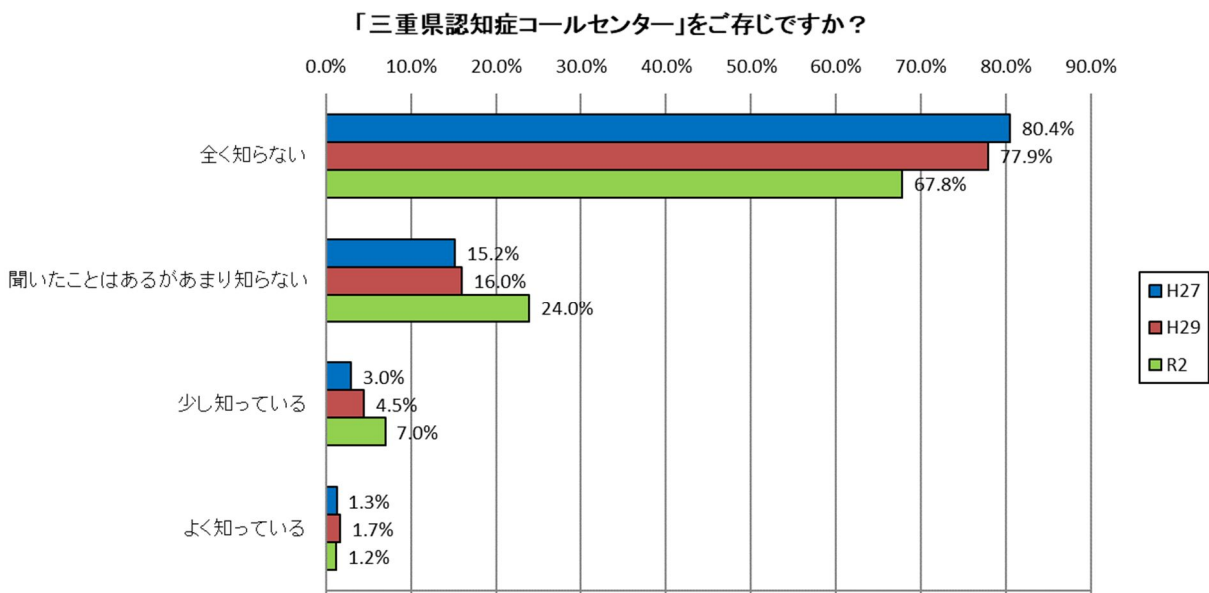
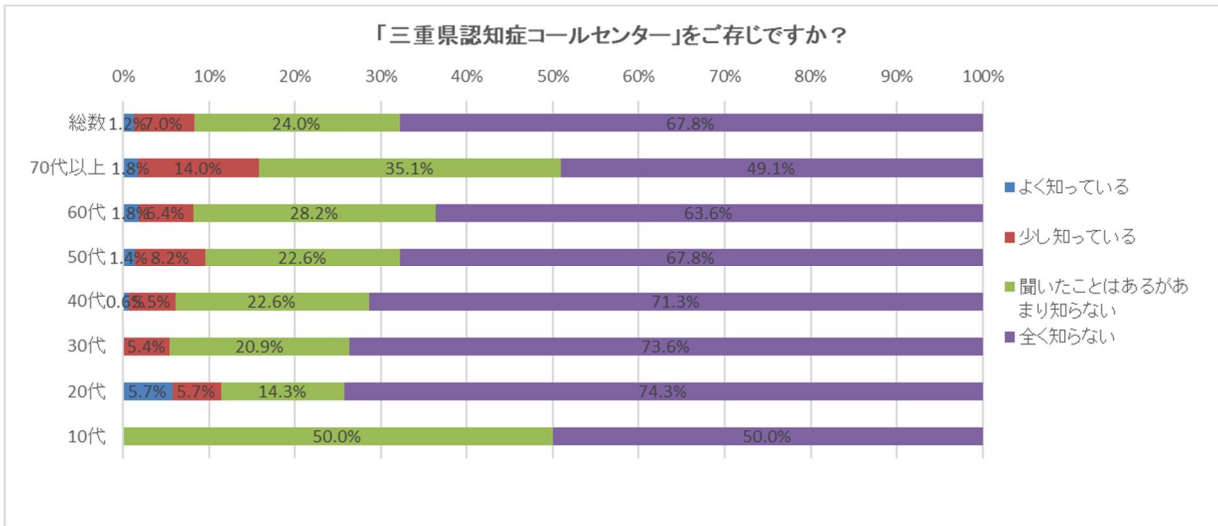
高齢社会に対応していくため、日々の暮らしに関して、最も重点を置くべき対策についてお聞きしたところ、「老後でも安心して生活できるような年金の保障」と答えた方の割合が66.4%と最も高く、以下、「必要な時に医療・介護サービスを利用できる体制の整備」（59.6%）、「移動手段・公共交通の整備をはじめとする高齢者に配慮した街づくりの推進」（29.4%）「働きたい高齢者が働くことができる就労機会の確保」（14.5%）などの順となっています。（複数回答）

前回の調査結果（平成29年）と比較してみると「老後でも安心して生活できるような年金の保障」（58.2% → 66.4%）の項目が増加し、「働きたい高齢者が働くことができる就労機会の確保」（25.3% → 14.5%）の項目が減少しています。

年代別に見ると、「老後でも安心して生活できるような年金の保障」は50歳代、40歳代で、「必要な時に医療・介護サービスを利用できる体制の整備」は70歳代以上、60歳代で、「働きたい高齢者が働くことができる就労機会の確保」50歳代、40歳代、30歳代で、それぞれ高くなっています。

（「三重県認知症コールセンター」について）

Q8 あなたは、認知症に関する悩みや相談を受ける「三重県認知症コールセンター」をご存じですか。



「三重県認知症コールセンター」についてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が8.2%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方が91.8%を大きく下回り、ほとんど知られていないことが分かりました。

平成29年度のアンケートでも、「よく知っている」、「少し知っている」6.2%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」93.9%であったため、引き続き、周知を図る必要があることがわかりました。

年代別にみると、「少し知っている」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方の割合は70歳代以上で高くなっています。

三重県認知症コールセンターでは、認知症に関する様々な悩みや相談を、認知症の介護経験者等のコールセンタースタッフがお聴きしています。必要と判断した場合は、医療機

関の受診や介護サービスの利用のアドバイスをします。

電話番号 059-235-4165 (よいうご)

開設時間 月～土 10時00分～18時00分

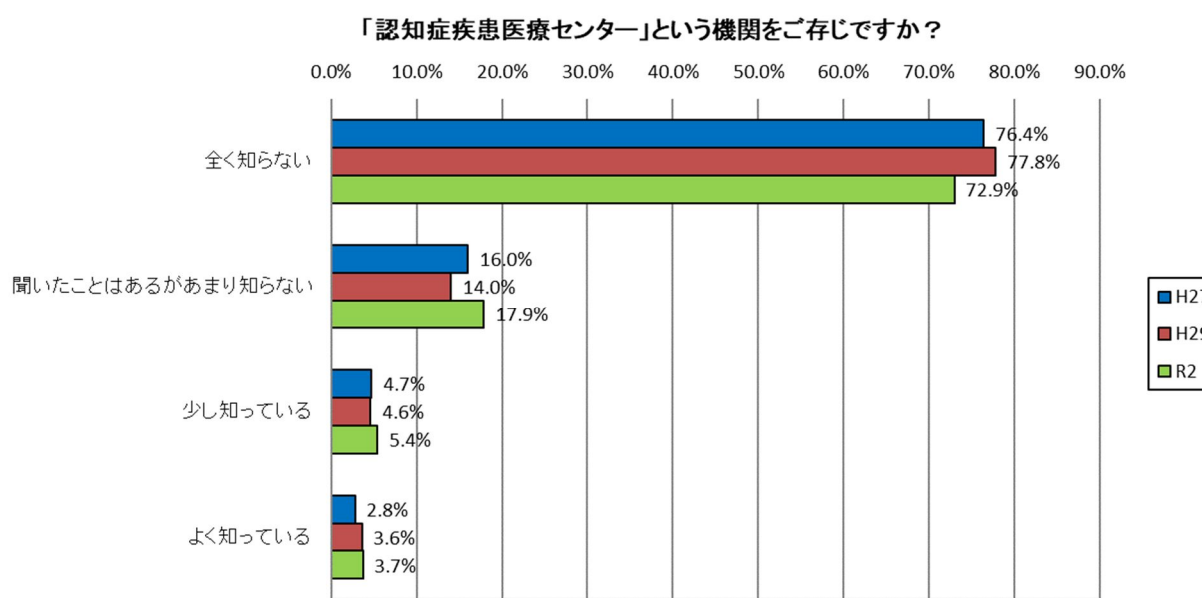
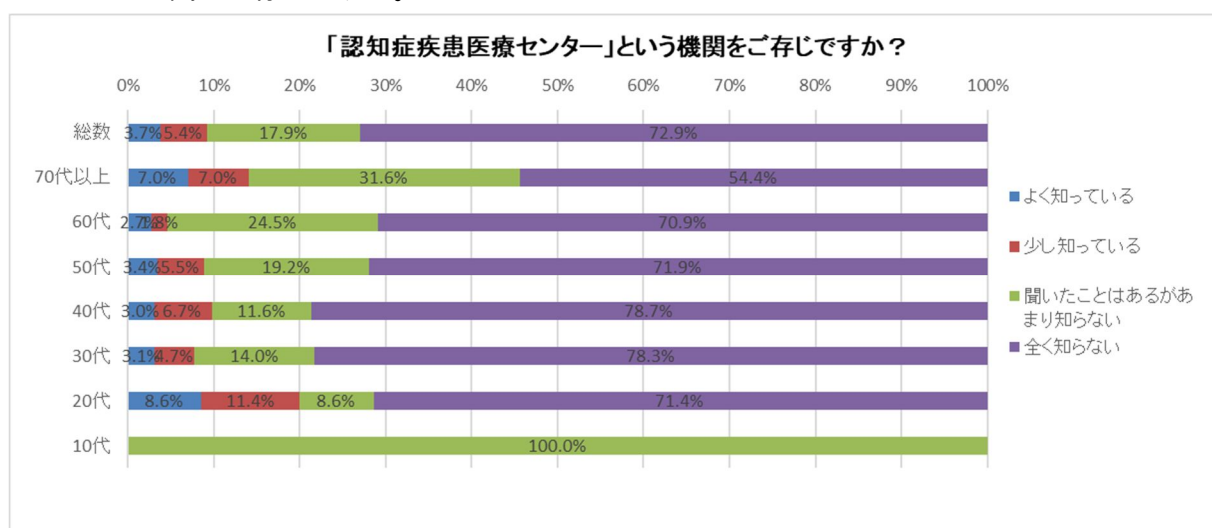
水曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)は除く

認知症の介護に悩むご家族の方、認知症の方本人等が気軽に相談していただけるよう、県はコールセンターの周知を図っていきます。

<https://www.pref.mie.lg.jp/CHOJUS/HP/46923022904.htm>

（「認知症疾患医療センター」について）

Q9 あなたは、認知症に対する専門医療等を行う「認知症疾患医療センター」という機関をご存じですか。



認知症の専門医療機関である「認知症疾患医療センター」についてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が9.1%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」90.8%を大きく下回り、ほとんど知られていないという結果になりました。

平成29年度のアンケートでも、「よく知っている」、「少し知っている」8.2%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」91.8%であったため、引き続き、周知を図る必要があることがわかりました。

年代別にみると、「少し知っている」と答えた方の割合は20歳代で、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方の割合は70歳以上で高くなっています。

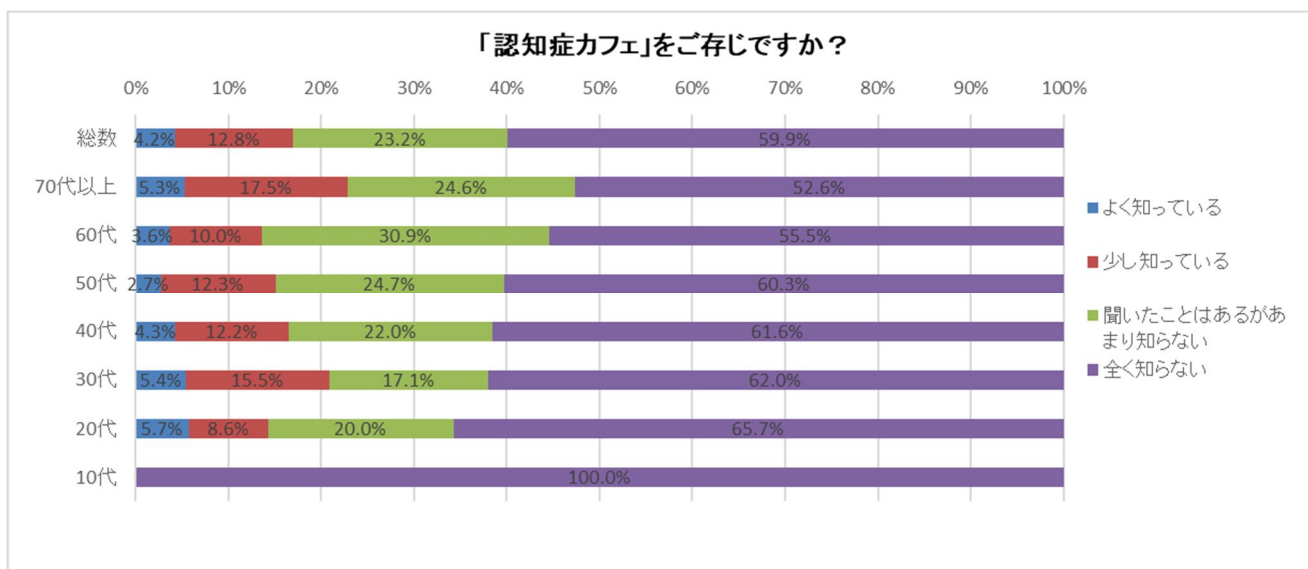
認知症疾患医療センターは、認知症の専門医療の提供、専門医療相談を行います。また、地域の医療・介護関係者への研修を行うことなどにより、地域における医療と介護の連携機能を果たします。

県は、現在認知症疾患医療センターを9箇所指定しています。詳しくは三重県ホームページをご覧ください。

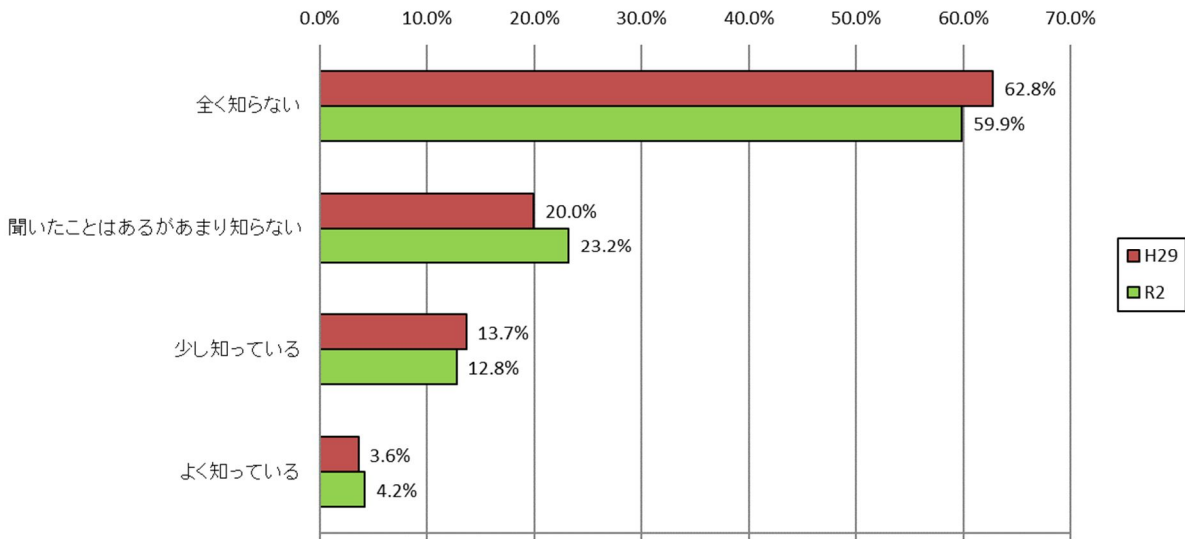
<https://www.pref.mie.lg.jp/CHOJUS/HP/46925022906.htm>

（「認知症カフェ」について）

Q10 市町・介護事業所・ボランティア等によって開催され、認知症の人やその家族、地域の人や介護等の専門職が集い、喫茶等をしながらの会話、相談や情報交換、仲間づくりを行うことのできる場である「認知症カフェ」をご存じですか。



「認知症カフェ」をご存じですか？



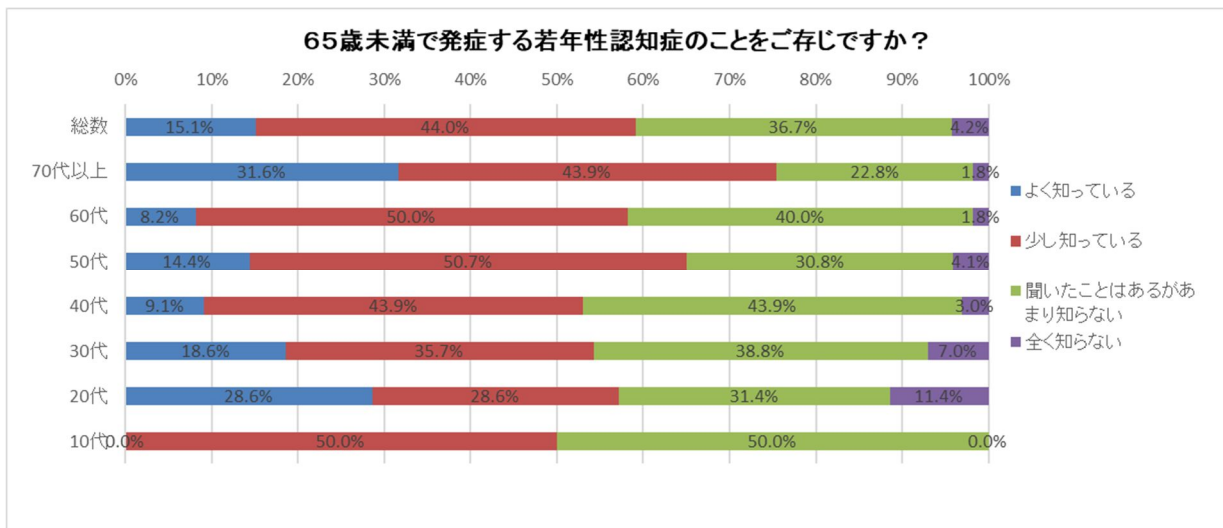
認知症の人やその家族、介護等の専門職、地域の人々の集う場である「認知症カフェ」についてご存じかどうかお聞きしたところ、「知っている」「少し知っている」と答えた方が17.0%で、「全く知らない」「聞いたことはあるがあまり知らない」83.1%を大きく下回り、ほとんど知られていないという結果になりました。

年齢別にみると、「少し知っている」と答えた方の割合は70歳代以上で、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方の割合は60歳代で高くなっています。

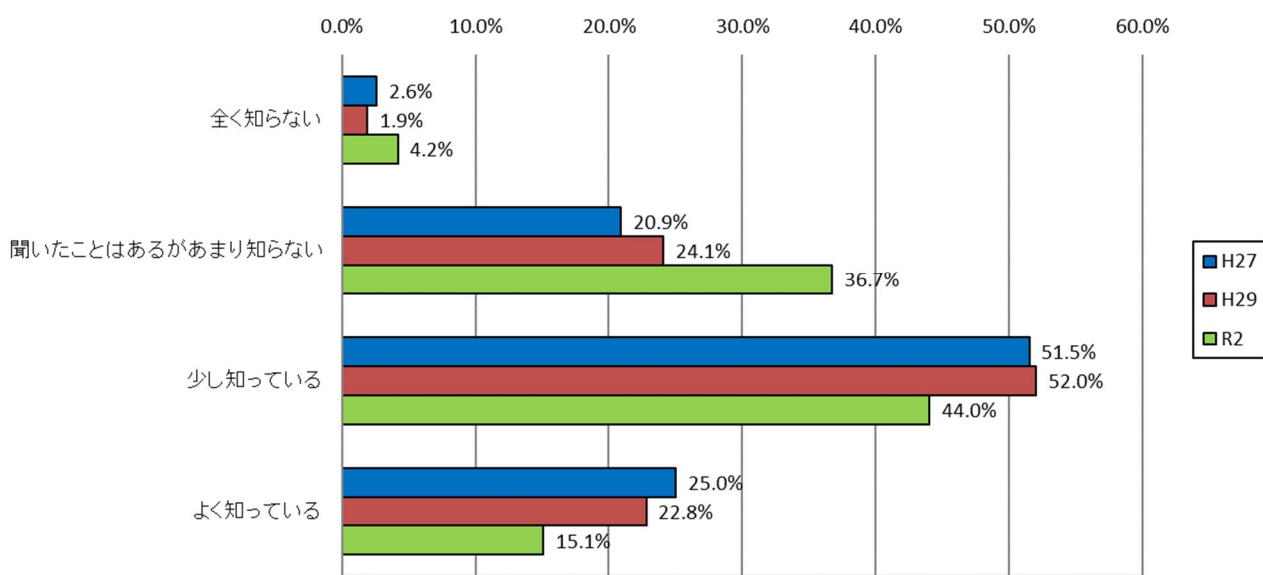
「認知症カフェ」は認知症の人やその家族が、地域の人や専門家と相互に情報を共有し、お互いを理解し合う場として設置が推進されています。県でもさらに認知症カフェについての周知や設置支援を行っていきます。

（若年性認知症について）

Q11 あなたは、65歳未満で発症する若年性認知症のことをご存じですか。



65歳未満で発症する若年性認知症のことをご存じですか？

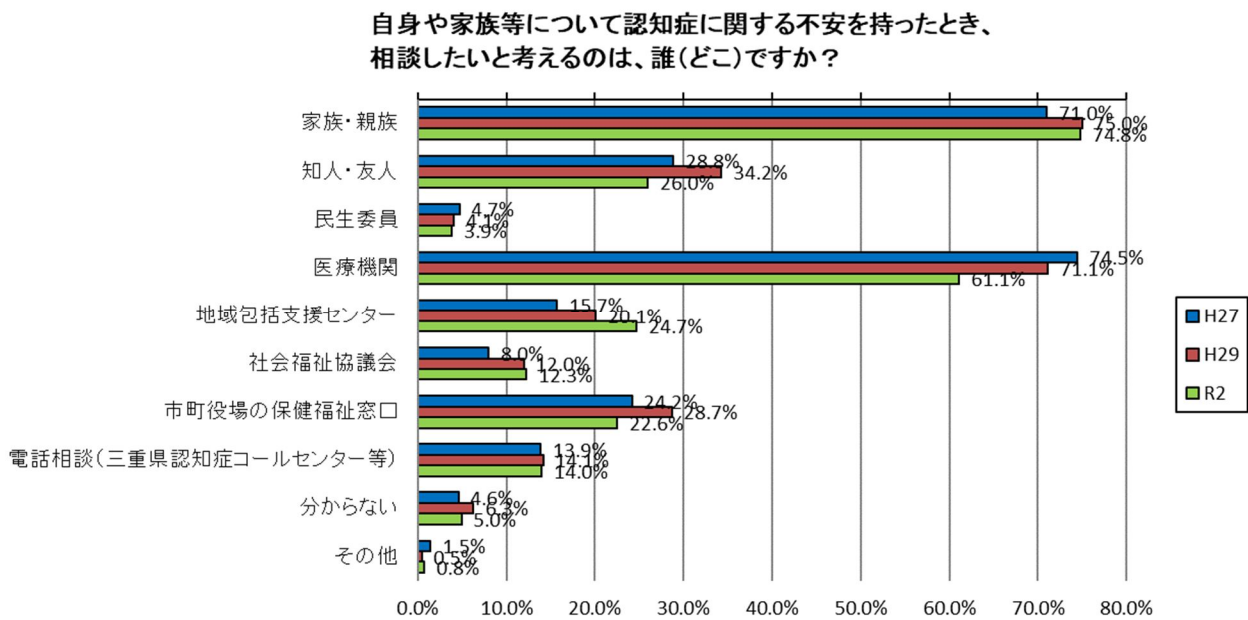
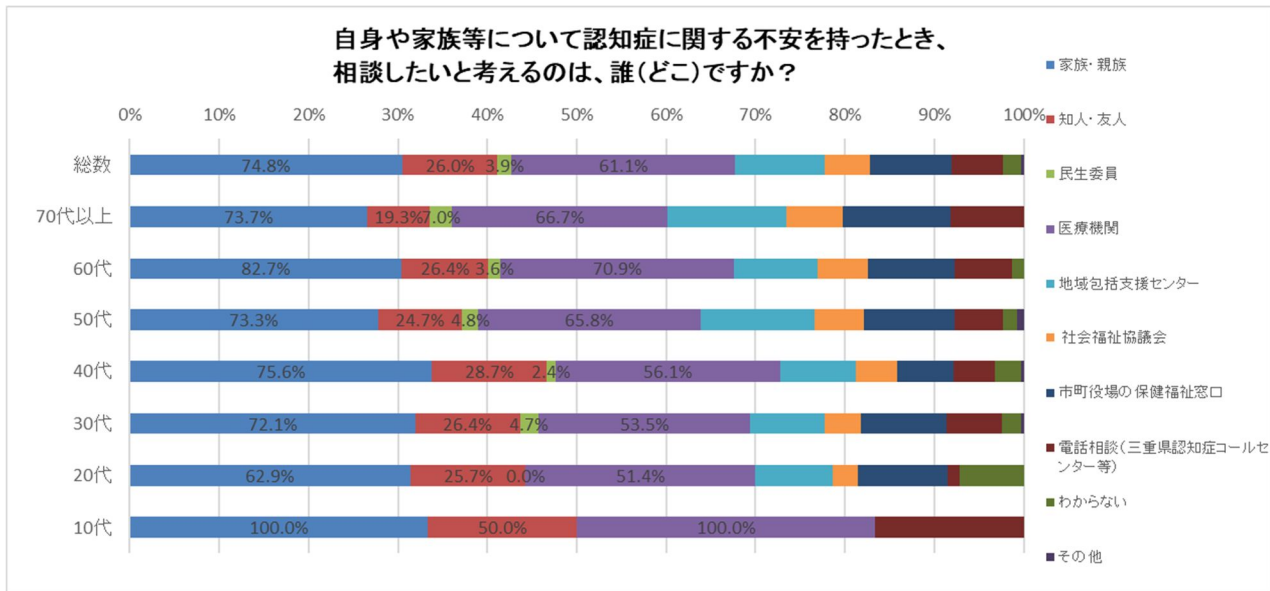


65歳未満で発症する若年性認知症についてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が59.1%で、「全く知らない」、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方は40.9%でした。

年代別にみると、「よく知っている」と答えた方の割合は70歳代以上と20歳代で、「少し知っている」と答えた方の割合は60歳代と50歳代で、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方の割合は40歳代で高くなっています。

（認知症に関する相談先について）

Q12 あなたが、自身や家族等について認知症に関する不安を持ったとき、相談したいと考えるのは、誰（どこ）ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



認知症に関する相談先について複数回答でお聞きしたところ、上位回答には「家族・親族」(74.8%)、次いで「医療機関」(61.1%)、「知人・友人」(26.0%)が挙がりました。

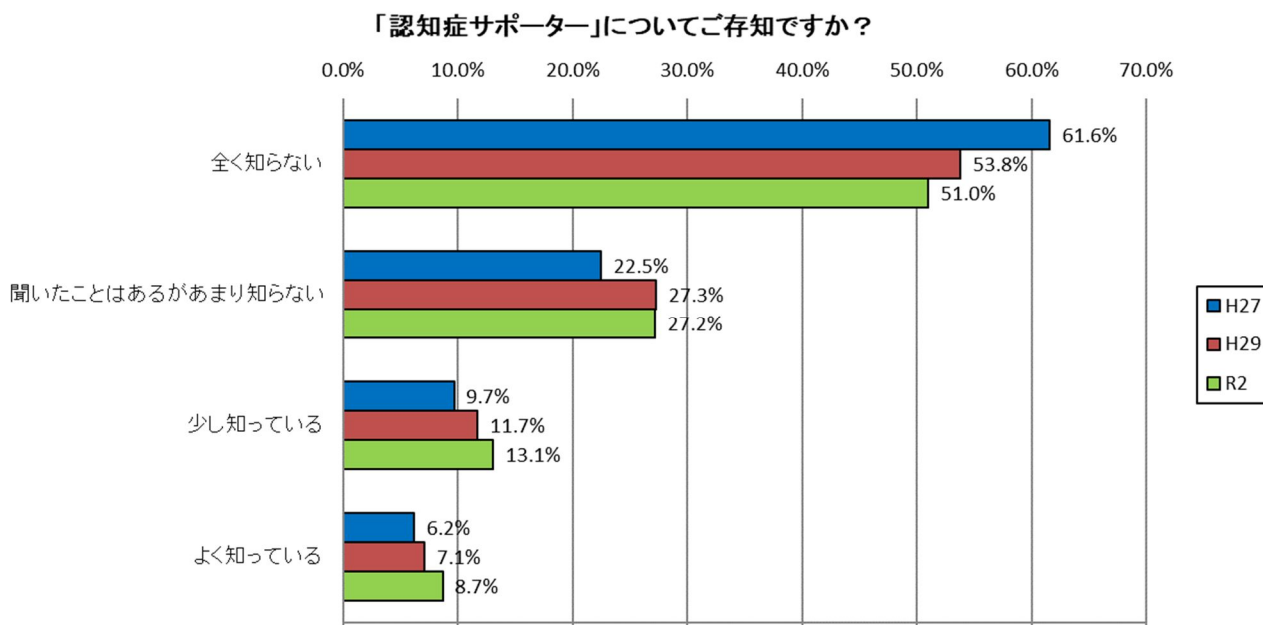
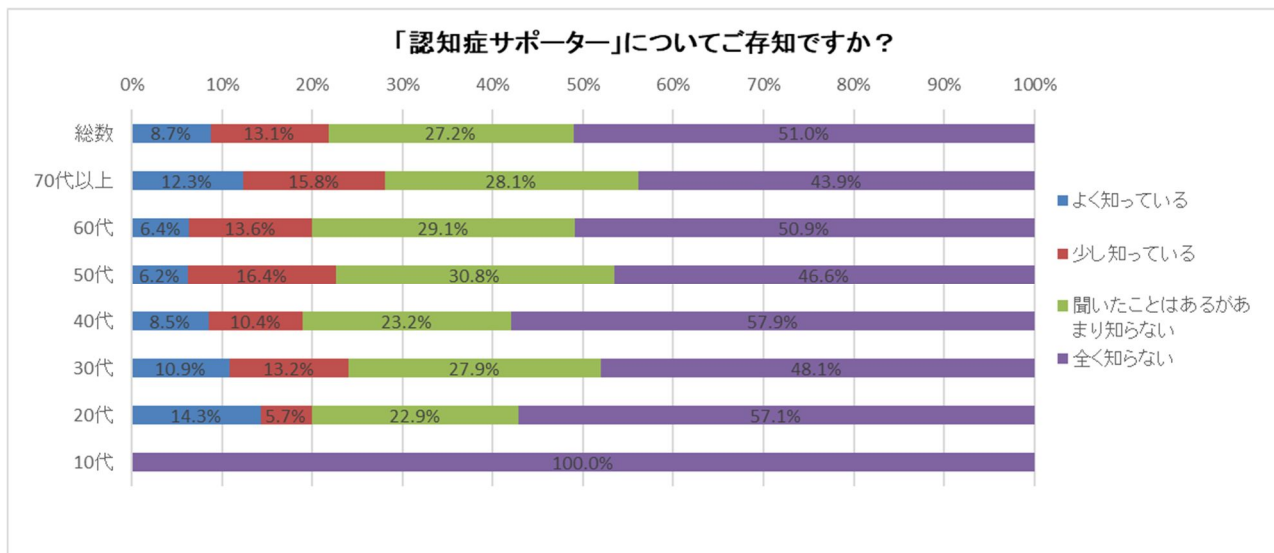
平成29年度のアンケート結果の上位回答は、「家族・親族」(75.0%)、次いで、「医療機関」(71.1%)、「知人・友人」(34.2%)であったため、ほとんど変化は見られませんでした。

相談窓口等はこちらのホームページでご案内しています。ご参照ください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/CHOJUS/HP/44540022885.htm>

(認知症サポーターについて)

Q13 「認知症サポーター」(認知症に関する講座を受講し、認知症について理解したうえで認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存じですか。



「認知症サポーター」(認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者)についてご存知かどうかお聞きしたところ、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方が21.8%、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方は27.2%、「全く知らない」と答えた方は51.0%でした。

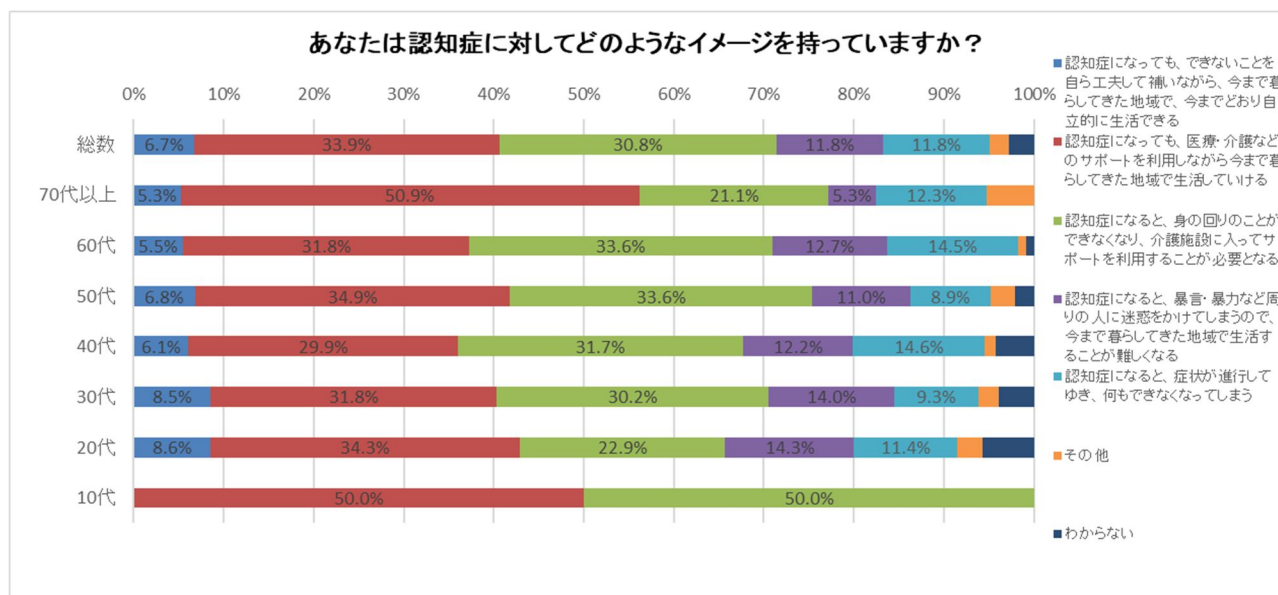
年代別にみると、「よく知っている」と答えた方の割合は70歳代以上と20歳代で、「少し知っている」と答えた方の割合は70歳代以上と50歳代で、「全く知らない」と答えた方の割合は40歳代と20歳代で高くなっています。

平成 29 年度のアンケートの結果では、「よく知っている」、「少し知っている」と答えた方は 18.8%、「聞いたことはあるがあまり知らない」と答えた方は 27.3%、「全く知らない」と答えた方は 53.8% でしたので、若干認知度が上昇しています。

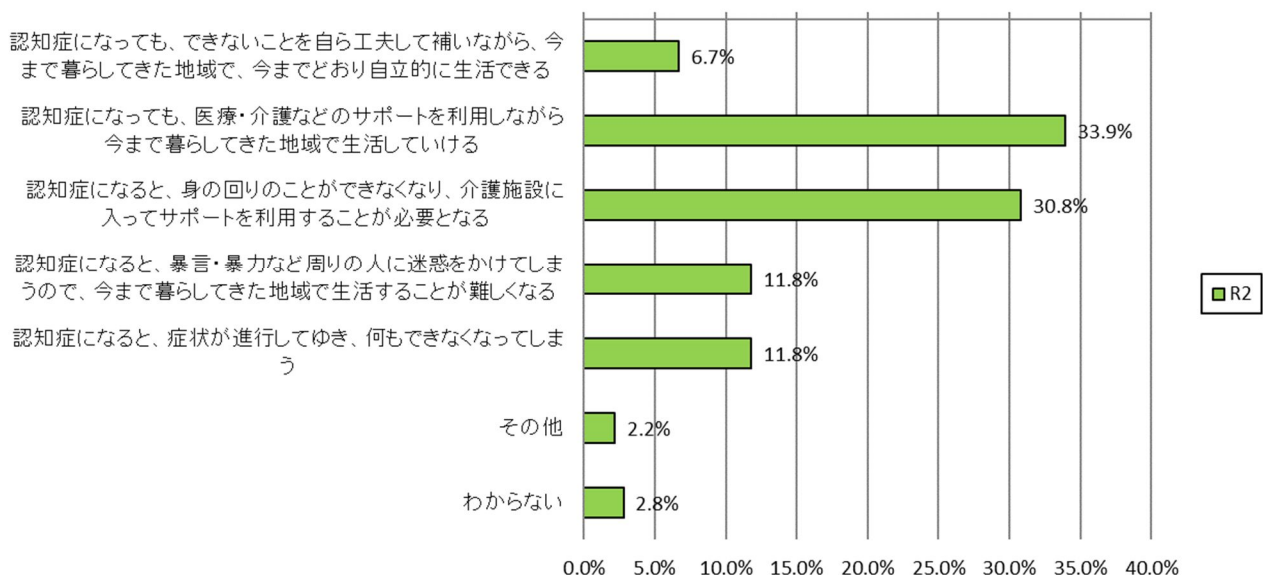
県では、引き続き認知症サポーターについての周知を進めていきます。

(認知症に対するイメージについて)

Q14 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。もっとも近いものを 1 つ選んでください。



あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか？

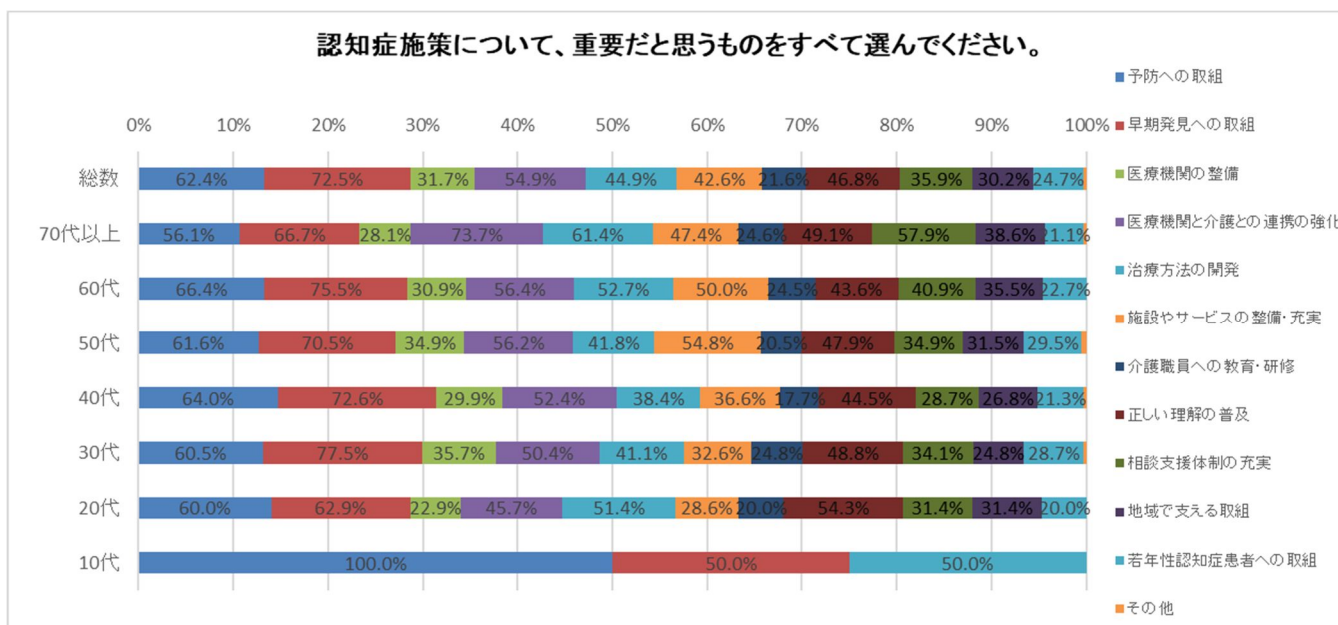


認知症に対してどのようなイメージを持っているかについてお聞きしたところ、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら今まで暮らしてきた地域で生活していける」と答えた方の割合が 33.9%、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要となる」と答えた方の割合が 30.8%となっています。

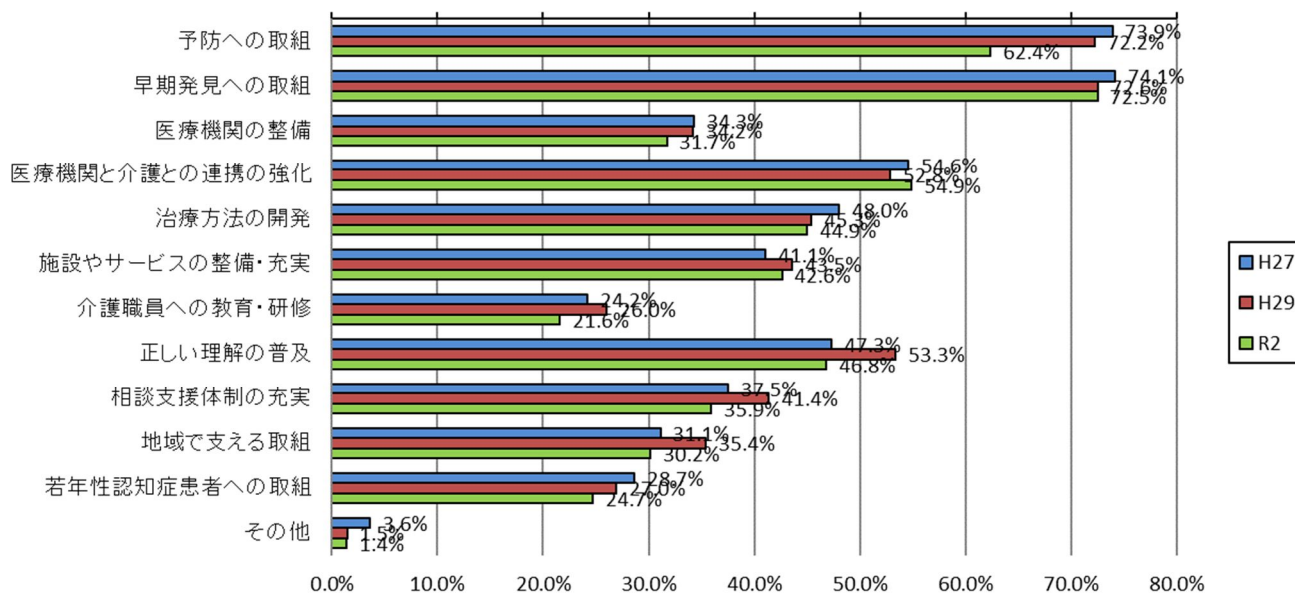
年代別に見ると、「認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら今まで暮らしてきた地域で生活していける」と答えた方の割合は 70 歳代以上で、「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要となる」と答えた方の割合は 60 歳代、50 歳代で、「認知症になると、暴言・暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる」と答えた方の割合は 20 歳代で、「認知症になると、症状が進行してゆき、何もできなくなってしまう」と答えた方の割合は 60 歳代、40 歳代で高くなっています。

（認知症施策について）

Q15 認知症施策について、重要だと思うものをすべて選んでください。



認知症施策について、重要だと思うものをすべて選んでください。



平成 27 年、平成 29 年の質問は、「社会として、最も重点を置くべき認知症施策は何だと思いますか。重要だと思うものをすべて選んでください。」でした。

最も重点を置くべき認知症施策についてお聞きしたところ、上位回答は「早期発見への取組」(72.5%)、「予防への取組」(62.4%)、「医療機関と介護との連携の強化」(54.9%)、「正しい理解の普及」(46.8%)でした。

平成 29 年度のアンケート結果では、上位回答は、「早期発見への取組」(72.6%)、「予防への取組」(72.2%)、「正しい理解の普及」(53.3%)、「医療機関と介護との連携の強化」(52.8%)でした。

年代別に見ると、「早期発見への取組」は 60 歳代、30 歳代で、「予防への取組」は 60 歳代、40 歳代で、「医療機関と介護との連携の強化」は 70 歳以上で、「正しい理解の普及」は 70 歳以上、20 歳代で、それぞれ高くなっています。